

新常盤研究会 第四回研究会 メモ

日時：2007.04.22（土）10:00～13:00

場所：丸ビル 10F 一ツ橋会議室

出席者：常盤先生、片平先生、古川先生

有馬(CATWALK)、池田(アサヒビール)、今田(日経 BP)、白井(白井農産)、大下(レコナー)、岡(オリエンタルランド)、宇野(NTTドコモ)、古城(ホンダ)、砂田(朝日新聞)、瀬野(東急総合研究所)、中山(オリエンタルランド)、平井(マネージメント)、松崎(ナリツ)、松永(NEC)、松山(日本ものづくり学会)、丸山

【関心事：常盤先生】

技術とイノベーション

どうして今か問うてみる必要がある。

20 世紀は「要素還元的」一部分部分分け

解析的なアプローチに走り過ぎ

分析依存症候群：コスト削減、効率～細かく細かくして

→物事を大づかみで捉える発想／全体的に捉える視点←20 世紀に欠けていた

先進国とは違うシステム グローバル＝裏には米・欧

アジアの視点～欠けていた

→入れていく必要

分析依存症候群＝その分野毎の価値観

もっと物事を統括的に捉える

(ex. クローズアップ 現代：病名がつかない病気、治療法が分からない。医療現場も細分化)

部分最適⇒限界

部分→全体 イノベーション 出発

個人→集団 個々を離れて集団で働く

アメリカかぶれから離れて、それを忘れると、日本は得意の筈

グローバル：人とは違う仕組みをグローバルに競う。

日本流イノベーション／木を見るより森を見る

企業：技術革新・経営革新

① 技術革新

量の時代終わった～日本：モノの価値を低コスト、質高いもの、量で

⇒知の価値を追求

21 世紀、技術だけでなく +  $\alpha$  の革新が必要。この +  $\alpha$  の議論必要。

技術だけではイノベーション無理

情報・通信・環境・…、社会全体の問題

技術と組合せ→イノベーション

蝸壺から抜け出さないとダメ

◎技術と何を組み合わせるか

コトづくり：作っている人奮い立たせる

技術者の心の問題解決すること

「人の心」アプローチ必要

- 1) 技術だけではダメ → 他のものとセット
- 2) 技術を生み出す → 心のアプローチ重要

## ② 経営革新

経営面からのイノベーション

内部監査の仕組み、リスクのマネージメント

バランスシート：潜在的なリスク～アメリカ流マネージメント

もっと企業（経営）の仕組み、変えていかないと

新会社法／SOX法←イノベーションでも何でも無い

シュンペーター：新結合こそイノベーション

→新マーケットの開発もイノベーション／企業のM&Aもイノベーション

米国流 金中心の経営

お金が我々のゴール／生きがいかな？

→「幸せ／生きがい／働く喜び→経営の仕組みに反映」

モノの価値→“知の価値”へ

人の社会→経営の中で重要視

マネーゲーム＝米国流経営の限界

⇒新しい経営モデル←人が加わらないとダメ

デモグラ+お金 ～セットにした経営のモデル

人が主役－経営

中小企業：元気のいい会社→良く分かっている

フラグメント（破片）大きくしていく

要素還元的→元に戻す

◎モノゴト：全体として存在して初めて価値を持つ

（片平）正社員 2000 名の会社で、誕生パーティー200 万円。

イニシアチブ若者、組合委員長うれしい

5 年間に比べて、部門分け、仕事が忙しくなっている

無駄を省いて、コスト削減

（常盤）改革・革新～会社が一番良いときにやると通り易い

【100の質問：宇野さん／丸山】

【次回】

5月20日（日）10～12時、丸ビル10F 一ツ橋会議室

【今後の予定】

6月9日（土）、6月30日（土）

【フィールドワーク】

候補日：5／8（火）、24（木）、6／8（金）